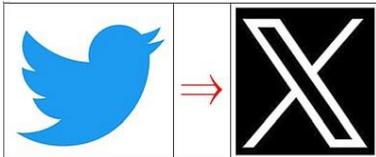


## Twitter から X へ: 改称の「神」秘への不安

「Twitter」が「X」に名称変更されたのは、2023 年 7 月 24 日。この改称には当初から違和感があり、それが時とともに減少するどころか、逆にますます拡大してきた。「なぜだろう?」と不思議に思っていたのだが、クリスマスが近づいてきて、「ああ、そうだったのか!」と、自分なりにその理由を得心させられるに到った。



■ Twitter から X へ

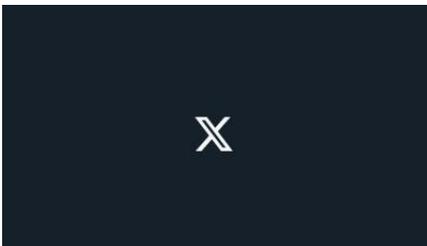
「Twitter」は、「さえずる／さえずり」という意味で、140 字の自由投稿アプリに相応しい命名であり、楽しく有意義に利用させていただいていた。ところが、これが「X」へと改称されると、もはや、そうはいかなくなった。

「Twitter」を買収した E・マスク氏は「X」への改称を、あらゆる情報のためのスーパーアプリ (everything app) とするため、と説明した。ドメイン「x.com」を所有し、「スペース X」を創設したマスク氏らしい。

が、小心臆病の私には、そのような万能スーパーアプリをめざす「X」は、当初から、どことなく薄気味悪く、怖気づかざるをえないようなものだった。「ニッポニカ」百科は、文字「X」について、こう説明している—

「X はキリストを表し、クリスマスは X'mas と書くことがある。化学ではキセノンの元素記号であり、数学では X は第一未知数(量)を表し、そこから転じて未知の人間や事物を示すのに用いられる」([斎藤公二](#))。

「X」は、始原であり無限であり未知、そして神(キリスト)である。



■ ツイッター開始画面: 暗黒 = 無から神の如く出現する「X」。[背

景が白⇒黒と変化することもある]

マスク氏自身は、「X」アプリが宗教的意味を持つとは言っていないが、それが“あらゆる情報のためのアプリ”を目指すとするれば、そこに宗教的な意味が生じてくるのは自然であり必然ともいえよう。「X」が、アクセスのたびに、多かれ少なかれ「怖れ」を感じさせるのは、そのためなのだ。

クリスマスが近づき、巷にあふれる“Xmas”を目にするようになってはじめて、「ああ、そうだったのか!」と気付かされた次第。いまさらながら。

谷川昌幸(C)

[自民党とネパールのキリスト教](#) 2012/12/12 選挙

[京都の米軍基地\(13\):「Xバンドレーダー体制」の危険性](#) 2013/07/30 軍事

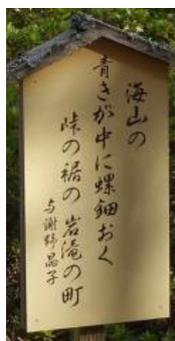
[京都の米軍基地\(23\): 特定秘密としてのXバンドレーダー](#) 2013/10/27 軍事

Written by Tanigawa 編集 2023/12/17 @ 09:32 カテゴリー: [言語](#), [宗教](#), [情報](#), [文化](#)

Tagged with [キリスト教](#), [無](#), [神](#), [twitter](#), [X](#), [創造](#), [万物](#), [万能](#)

## 丹後半島の晩秋

11 月末, 久しぶりに郷里に帰り, 丹後半島を回ってきた。すでに晩秋とはいえ, 温暖な好天続きだったせいか, 紅葉がまだ残り, 山や村を美しく彩っていた。



■大内峠から望む天橋立 / 与

謝野晶子歌碑



■丹後町宇川



■丹後町・弥栄町境界付近

丹後半島は、冬には数メートルもの雪が積もる豪雪地帯で、かつては日本三大秘境の一つとされていた。それでも日本海沿いに点在する漁村と内陸山地の村々との間には、山地を縫ってクネクネ上下する細い生活・交易路がいくつかあり、日常的に使われていた。

ところが、高度成長が始まり、遠回りでも便利な車道が整備されていくと、古来の山道は敬遠され、ますます不便となった山道沿いの小集落からは住民が一家族また一家族と離れていった。

今回、たどってみた宇川沿いの山道もその一つ。山地の細いクネクネ道だが、数十年前までは、そこそこ整備され、道沿いには住居も何軒かはあった。

とりわけ感動的だったのは、その道から枝分かれした、さらに細い道の先の谷間に小集落があり、そこに小さなキリスト教会があったこと。まるで**エデンの園**！

ところが、数年前、その山道を登り、分岐点まで行くと、枝道の方に「補修中につき通行止め」の看板が出ていた。その時は、一時的な通行止めで、先の谷間の集落はあるに違いないと思っていた。が、今回行ってみると、「通行止め」看板はそのまま。どうやら「エデンの園」のような谷間の小集落は教会ともども廃村となり、無くなってしまっていたらしい。

残念だが、仕方なく通行止めの枝道は諦め、まだ何とか通れる小川沿いの山道を登っていくと、道端に数件の廃屋がかろうじて残っていた。が、荒廃は無残なまでに進行。この冬の豪雪には、もはや、とうてい耐えられそうにはない。

その道端には、お地蔵さまがただ一人、笑みをたたえ、ひっそりとたたずんでおられた。



■丹後町小脇

谷川昌幸(C)

[晩春の山村:丹後半島最深部](#) 2019/05/27 社会

[京都の米軍基地\(104\):豪華改修道路](#) 2017/01/06 行政

[京都の米軍基地\(111\):いたるところで土木工事](#) 2017/11/10 軍事

Written by Tanigawa [編集](#) 2023/12/03 @ 17:33

カテゴリー: [社会](#), [自然](#), [文化](#), [旅行](#), [歴史](#) Tagged with [過疎化](#), [廃村](#), [丹後](#)